

JAQGガイドス文書へのコメントとその回答

No. 番号	ガイドス文書番号 (0~4)	ページ#	ご意見	提案/変更案 (あれば)	理由/根拠 (あれば)	WG 検討結果
1	0	2	「品質に係わる事案が発生したことに鑑み」ではいつ何があったかわからない。この表現では何の教訓にも反省にもつながらず、問題意識が伝わらない。	SJAC会報No.706に書いている情報を追記する。		「品質に係わる事案」の再発防止のみが目的ではないため、いつ何があったかの記述は必須とは考えていません。誤解を防ぐため以下の記述に修正しました。 変更)JAQGでは、日本の航空宇宙業界において、品質に係わる事案が発生したことを機会に、再発防止を含め「品質マネジメントシステム」をより強固にするための方策を検討した。
2	0, 1, 4		順守「0.の2頁, 4.の14頁,19頁」と遵守「1.の5頁,11頁,32頁」が混在している。	何れかに統一すべき。		「遵守」に統一します。
3	0~4		「防衛産業」と「防衛分野」と「防衛業界」が下記の通り混在している。 「0.」~防衛産業~(表紙), ~防衛分野~(4頁), 「1.」~防衛分野~(表紙,4頁), 「2.」~防衛産業~(4頁,5頁,8頁,9頁,24頁), ~防衛分野~(表紙), 「3.」~防衛分野~(表紙,5頁), 防衛業界(3頁,4頁), 「4.」~防衛分野~(表紙,4頁)	何れかに統一すべき。		基本は「防衛分野」としましたが、文意に応じ「防衛XX」を使い分けました。
4	1	7	安全保障貿易管理の要求を追加されるべきかと思えます。	輸出貿易管理令/外国為替管理令に従った、製品・技術の輸出管理	航空業界は高度な製品・技術を扱っていること。武器輸出3原則の運用緩和があること。中国の脅威があること。	P9の補足として加えます。
5	1	7	航空宇宙業界に関係の深い主な法令が列挙されているが、どのように関係が深いのか書かれていると良い。	p.8で航空法関連が説明されているように、それぞれの法令が関係する例を示す。		簡単な補足説明を追加します。
6	1	17	「e-ラーニングを導入しようとする組織が多い」という表現はガイドラインとして適切ではない	P14だけでよい。		P14は「具体的事例による研修やe-ラーニングを導入しようとする組織が多い」ことをアンケートの結果により紹介しているものであり、何かを示唆する意図はないため不変とします。
7	1	23	事例の内容が判読できない	紙面を増やすか細部資料を付属資料として添付する。	事例活用ができない	P23の資料は、下段及びP31でもHPを紹介しているため、資料の入手は可能です。
8	1	24	②…「気づき力」…	②…「気づき力」…	4.4「気づき力」の養成(続き)と整合	修正します。
9	1	30	コンプライアンス研修の事例として示されているSampleが見づらい。	Sampleであるが、流用可であれば、見易く、流用不可であれば、削除してよい。		一企業の事例を紹介したもので詳細まで記すことは残念ながら不可ですが、イメージとしてご理解いただければと思います。
10	1	32	長くて主旨が伝わらない。	第2文まででよい。		「8. 最後に」は、編集後記として作成メンバーそれぞれの思いを記したものですのでそのようにご理解いただければ幸いです。
11	2	10	「過去の不具合事例」←「不具合」という言葉がある。	「過去の 不適合 事例」に修正する。	「不具合」という言葉は、「不適合」に置き換えられているから。	「不適合」に置き換え/修正します。
12	2	10	「期待される効果」という言葉と矢印が重なっている。	言葉の位置を変更。	確認ミスと推定されるから。	文字と矢印の重なり部を修正いたします。
13	2	11	教育にテレビ番組(等)の利用を薦めていますが、著作権についての考慮が必要だと思います。			ご指摘のように録画したテレビ番組については著作権の了解を得る必要があるため削除します。またあわせて抜けていた「書籍等」を追加します。

No. 番号	ガイダンス文書番号 (0~4)	ページ#	ご意見	提案/変更案 (あれば)	理由/根拠 (あれば)	WG 検討結果
14	2	11	「怖さを理解させ・・・」のところの事例は、怖さを理解させるためにどういことを期待したものか不明確だと感じます。	これらの事例が、どういことに繋がるのか(繋がったのか)、またその影響について触れることも説明に含めては、いかがでしょう。		ご指摘のように文書と事例とのつながりに分かり難い表現がありましたので、次のように修正いたします。事例については文書を詳しくすることで文意に含まれるため削除します。 故意の手抜きや違反、ポカが重大事故に繋がることの怖さを理解することでモラルと品質意識を向上し、自らこれらを防止する。
15	2	13	FMEAやR-Mapのイメージを添付しておく必要はないでしょうか。			「FMEA」や「R-MAP」についてなじみの薄い場合もあるかと思しますので、「3. 用語および略語一覧」にこれらの用語の説明を追加いたします。
16	2	13 24	「不具合」という言葉が使用されていますが、「不適合」にしておく必要はないですか。			「不適合」に置き換え/修正します。
17	2	15	(3)の評価手段には、アンケートも記載しておいたらいかがでしょう。			理解度評価にアンケートはよく使われており、有効な手段と考えますので、「有効性評価手段」に、「アンケート」を追加いたします。
18	2	15	②～不具合事例	②～不適合事例に修正する。	「不具合」という言葉は、「不適合」に置き換えられているから。	「不適合」に置き換え/修正します。
19	2	16	②～取り扱いに対し、目次と本文は「取扱い」	「取扱い」に統一すべき。		「取扱い」に置き換え/修正します。
20	2	—	5. 参考事例には、設計や手順書等、作業的な要素以外の直接的原因であったものも入れておけばどうでしょう。			5章の資料は、「教育資料のイメージ」を示したもので、5章そのものを教育資料として使われることを意図したものではありません。当ガイダンス文書は、各組織が飛行安全教育を行う際の教育計画の指針を提供することを主眼としており、6章に示す引用文書/関連サイト等をご活用いただき、各組織自身のニーズにあった資料を作成いただくことがより効果的であると考えます。したがって、現状のままといたします。なお、同様なご意見が多く寄せられました場合には、次回改訂での反映を検討いたします。
21	2	17-20	事例の内容が判読できない	紙面を増やすか細部資料を付属資料として添付する。	事例活用ができない	5章の資料は、「教育資料のイメージ」を示したもので、5章そのものを教育資料として使われることを意図したものではありません。当ガイダンス文書は、各組織が飛行安全教育を行う際の教育計画の指針を提供することを主眼としており、6章に示す引用文書/関連サイト等をご活用いただき、各組織自身のニーズにあった資料を作成いただくことがより効果的であると考えます。したがって、現状のままといたします。(ご参考用として5章の各項の事例に、情報出典を追記いたします。)なお、同様なご意見が多く寄せられました場合には、次回改訂での反映を検討していきたいと考えております。

No. 番号	ガイダンス文書番号 (0~4)	ページ#	ご意見	提案/変更案 (あれば)	理由/根拠 (あれば)	WG 検討結果
22	2	P15	航空宇宙に携わる管理者及び作業者に飛行安全の意義と各人の影響を感得させることが強固な航空宇宙QMS構築の根底であり最も有効な手段である。このため講師の力量については高度なレベルをより具体的に示すべきである。 ①コンプライアンス教育は航空宇宙だけでなく9001条項として追加すべきである。 ②監査を厳しくして不正を暴くより不正をさせない動議付けが最も効果的であり、その手段は「飛行安全教育」である。	講師の力量(経験知識)の細分化/具体化 以下参照 飛行安全教育の講師として必要な知識・経験(力量) ①エンドユーザー(運航・整備)として管理者としての経験を有すること。 ②航空従事者(航空法、防衛省)としての経験を有すること。 ③工場検査員又は工場検査官(製造事業法)の経験を有すること。 ④航空宇宙産業経験を有すること。 ⑤航空(宇宙)事故調査の実務経験を有すること。 ⑥飛行安全に関し所属組織又は所属外の組織から表彰された経験を有すること。 ⑦大学又は組織において航空(宇宙)工学を履修した者であること。 ⑧教育者としての経験を有すること。	要求力量項目毎の理由 以下参照 ①エンドユーザーの視点が教育者の視座として共有されることが必須である。 ②航空法等の実務上の知識・経験が不可欠である。 ③航空機等製造事業法の実務上の知識・経験が不可欠である。 ④被教育者の立場を経験として理解していなければ教育効果はほとんど得られない。 ⑤航空(宇宙)事故の悲惨さ等を経験していないと飛行安全の必要性を効果的に訴えられない。 ⑥飛行安全に対する客観的評価が表彰という形で得られていることが必要である。 ⑦飛行安全を科学的に理解し教育するためには、学問的知識が総合的に必要である。 ⑧教育技法を有していることが教育者として必須である。 難しいかもしれませんが、航空法に基づき既に飛行安全教育を実施している事業場からの意見です。(パイロットOBによる教育について顕著→自分の仕事との関連が全く理解できない等)	今回作成したガイダンス文書は、業界全体の飛行安全に関する意識を向上(底上げ)するために「最低限必要と思われる教育の指針」を提供し、「組織自らが、それぞれのニーズに応じた教育を行えるようにすること」を目的としております。講師に求められる力量については、各組織でのガイダンス文書の活用状況及びその教育の成果について意見も取り入れながら、検討していきたいと考えております。以上の理由により、講師の力量に関する記述の反映については今後の改定版検討時の課題とさせていただきます。 なお、コンプライアンス教育の9001規格への反映のご提案については、その趣旨は理解いたしますが、ご存知の通り、9001規格はISO規格であり、特定の業界が直接的に関与することは難があります。JAQGとしてはまず9100規格の次回改正版への反映を検討しており、その実績により将来の9001改正版への提案に繋がることを期待したいと思っております。
23	3	表紙	「手順書」との用語が使われている。	「指示書」に修正する。	用語の統一。	「(関連作業手順書を含む)」を削除します。
24	3	3	リスクの説明は、図で示された「指示書の不備」と「作業者の手順逸脱」の順番で説明されるのが理解しやすい。	4.1項と4.2項の内容を入れ替える。		ご指摘のとおり修正します。
25	3	11 (17)	～見られる作業環境～は、～見られる作業環境～が正。	左記の通り、修正。		ご指摘のとおり修正します。
26	3	11 (17)	図中、「手順書」との用語が使われている。	「指示書」に修正する。	用語の統一。	ご指摘のとおり修正します。
27	3	14 (20)	ISO規格に基づくQMSを構築している企業では、内部監査が実施されています。当社は内部監査も現場からの意見吸い上げ機会と捉えています。	内部監査での吸い上げガイドを追加してはどうでしょうか。	内部監査は現場の実態を把握するよい機会である。	内部監査で意見の吸い上げを行うのは一般的ではありませんので、このままとします。
28	3	21 (13)	タイトルが「作成・承認」であるので、作成時の問題点を、承認時に排除する観点があるとよい。	レビューや承認の目的、重要性を記載する。		確認、承認時のレビューに関する記述を追加しました。
29	3	23	不具合 → 不適合		「不具合」という言葉は、「不適合」に置き換えられているから。	ご指摘のとおり修正します。
30	3	—	4項は<要因>と<対策例/ベストプラクティス>が独立して記載されていますが、それぞれ対応するものをペアで記載した方が、分かりやすいですか。			<要因>と<対策例/ベストプラクティス>は一対一で対応していませんので、このままとします。
31	3	—	5. 参考事例には、事例により受けたインパクトなどを併記した方が、意識が向上するのではないのでしょうか。			情報提供会社の機密情報に関わりますので、このままとします。
32	4	8	日報や週報等の、公式な定期報告機会も例に挙げられていると良い。(食事会よりは一般的)	コミュニケーションの例として、日報や週報を追記する。		コメントいただきました通り、P8の中に、「日報や週報などの定期報告の機会」を追加します
33	4	16, 17	P22のポイントは、P16にこそ必要な内容では？			コメントいただきました通り、収集した意見への対応として、P17にP22と同じ内容の注意点を追加します。
34	4	—	各ページに、項目番号とタイトルの表示があった方が、分かりやすいと思います。			コメントいただきました通り、各ページに項目番号とタイトルを追加します。